



第166号

歳遊記

さいゆうき

(発行) こだまりクラブ愛媛
公益財団法人 愛媛県老人クラブ連合会

〒790-0843 松山市道後町2丁目9番14号
愛媛県県民文化会館別館内
TEL:089-925-7424



新年のごあいさつ
(公財) 愛媛県老人クラブ連合会
会長 松田 俊一

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方には、恙なく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃から、県老連の運営にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。昨年、長かったコロナ禍も収束に向かい、中止や縮小を余儀なくされていた活動が徐々に復活し始めた年でありました。

お陰をもちまして、9月の老人クラブ大会を盛況の下に終えることができ、10月のスポーツ大会も晴天のもと、皆様の洗練としたプレーに華を握り、精一杯の声援を送らせていただきました。

これも、皆様方が日頃から各地域で地道に老人クラブ活動をしてこられた賜物であり、そのご努力に深く感謝を申し上げます。

上げます。

さて、現在の健康寿命は、全国平均で男性が72・68歳、女性が75・39歳。この20年ほどで男女とも約3歳程度延伸しているそうです。愛媛県は、男性が71・50歳で全国46位、女性が74・58歳で全国44位と残念な結果となっておりますが、他県に比べ健康寿命延伸の伸び代が大きいと考え、むしろ前向きに捉えるべきではないかと思っております。

ちよっとした運動や食事への配慮で、まだまだ健康寿命が延びると考え、これからの愛媛では元氣な高齢者が益々増えることが期待されるところです。

また、全老連の調査でも、老人クラブのような組織活動は健康長寿の秘訣であると紹介されています。老人クラブ活動

への参加が健康寿命の延伸に役立っていることは、大変喜ばしいことでもあります。しかし、その老人クラブが、現在急激な会員の減少に見舞われていることはご案内のとおりです。この20年間でクラブ数は半減、会員数は3割台にまで落ち込んでいます。

高齢者を取り巻くライフスタイルや住民の意識が大きく変化していきながら、その対応には大きな困難を伴いますが、老人クラブは健康長寿の源であり、地域社会の担い手として欠くことのできない存在です。

これをいかにして守り、そして発展させていくか。これが今の私達に課せられた大きな課題であると認識しています。

これからも皆様の知恵をお借りしながら、この課題に真摯に向かい合い、老人クラブの発展・充実に粘り強く取り組んで参る所存でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

終わりに、各老人クラブの更なる発展と会員皆様のご多幸を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



新年挨拶
愛媛県知事 中村 時広

明けましておめでとうございます。令和7年の年頭に当たり、謹んで新春のお喜びを申し上げます。

老人クラブの皆様におかれましては、「健康・友愛・奉仕」を柱として、健康づくりやスポーツ・文化活動のほか、一人暮らしの高齢者の訪問、地域見守りボランティアなど、さまざまな活動に熱心に取り組まれており、深く敬意を表します。

さて、本県では、昨年4月時点の高齢化率が33・80%と、全国平均を上回るペースで高齢化が進んでおり、全国の高齢

者人口がピークとなる令和22年には県民の約4割を高齢者が占めると見込まれています。今後も、地域社会の維持・活性化を図るためには、高齢者の方々が生涯にわたって生きがいをもって、未永く活躍できる地域社会づくりが欠かせません。

このため、県では、昨年3月に策定した「愛媛県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画」に基づき、生涯学習機

会の提供、ボランティア活動への参加促進、スポーツ・文化活動の支援等、高齢者の社会参加や健康・生きがいづくりの

取り組みを推進してまいります。どうぞ皆様方には、これらの取り組みに御理解をいただきますとともに、いつまでもお元気で、地域を支える担い手として活躍され、本県の高齢者福祉の向上と「愛顔あふれる愛媛県」の実現にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、公益財団法人愛媛県老人クラブ連合会並びに各単位老人クラブのますますの御発展と、会員の皆様方の今年1年の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます。

第53回全国老人クラブ大会 神奈川県横浜市で開催

第53回全国老人クラブ大会が11月20日、21日の2日間、神奈川県横浜市の県民ホールにおいて「のぼろー健康寿命、担おう！地域づくりを」をメインテーマに開催され、本県からは12名が参加しました。

東京方面は今年一番の寒さというので、皆さんかなりの厚着で臨みましたが、寒さよりも雨に泣かされた初日でした。

まず「地域の仲間と取り組む老人クラブ活動」をテーマに、コールドインーターに神奈川大学人間学部教授齊藤ゆか氏を招いて、3名の方の活動発表がありました。活動の見える化・声掛けできる雰囲気づくり・入会したくなるようなプログラム（活動）を作るなど、大変参考になる発表ばかりでした。

最後に齊藤ゆか氏より、人生100歳時代に、長く生きるとはどういうことなのか、幸福感についての考え方を述べていく等、より良くいきいきと生きることにしたいのヒントをいただきました。2日目は、アマチュアビッグバ

ンドによる華やかなジャズ演奏で幕を開け、神奈川県立保健福祉大学名誉学長中村次氏による「栄養と食事」についての楽しい講演があり、その後式典がありました。今年度からは、老人クラブの育成・発展に日頃より、ご尽力いただいている女性会員や若手会員の功績を表彰する女性リーダー及び若手リーダー育成功労表彰も新設され、愛媛県からも別記のとおり表彰されました。

最後に、次回開催地である茨城県会長の次回大会挨拶があり、大会は盛会裏に終了いたしました。

大会宣言項目

- 一、健康長寿を目指す「健康活動」の推進
- 一、暮らしを見守る「支え合い活動」の展開
- 一、高齢者を豊かにする「生きがい活動」の充実
- 一、あらゆる世代と連携した「地域貢献活動」の推進
- 一、高齢者の尊厳が守られる「社会保障制度」の確立



◎受賞者

全老連会長表彰
岡本 正満
(伊予市老連前会長)

近藤 博昭
(四国中央市老連会長)

◎女性リーダー表彰
米田 美恵子
(宇和島市老連前女性委員長)

◎若手リーダー表彰
小屋敷 隆
(宇和島市老連若手委

員長)

第64回愛媛県老人クラブ大会開催される

去る9月4日、県民文化会館サンプホールにおいて、県下市町老連から会員660名が集い、第64回愛媛県老人クラブ大会が開催されました。大会は、まず「開会の言葉」で幕を開け、参加者全員による国歌斉唱のあと、物故された老人クラブ関係者に対し黙祷を捧げました。そして松田俊一県老連会長の大会挨拶に続いて、来賓の中村時広県知事及び三宅浩正県議会議長両氏からご祝辞をいただいた後、老人クラブに貢献された個人、団体等に対する表彰が行われました。

また、令和元年度まで行われていた四国老人クラブ大会表彰の代替として、昨年度創設された四国4県老人クラブ連合会協議会会長表彰についても、他の表彰と併せて伝達式が行われました。

なお、各表彰の内訳は以下の通り

人口減少時代にあつて、地域に主体的に関わる人を増やすために、祭り行事は重要な役割を担っており、老人クラブが目指す地域づくりに通じるのではないかと話されました。

講演の後には、愛媛県警刑事部組織犯罪対策課、特殊詐欺抑止上席係長の井上比呂司氏による「特殊詐欺等の詐欺被害に遭わないために」と題した警察講話が行われました。

そして最後に大会宣言を採択し、万歳三唱を行って、大会は成功裡に幕を閉じました。



- ◇愛媛県知事表彰受賞者 15名 (敬称略)
- | | |
|--------|-------|
| 岡田 綱枝 | 今治市 |
| 亀井 勇 | 八幡浜市 |
| 秋山 恒義 | 新居浜市 |
| 檜垣 一夫 | 新居浜市 |
| 難波江 進 | 西条市 |
| 和田 正壽 | 西条市 |
| 叶 義啓 | 大洲市 |
| 鎌倉 日出男 | 四国中央市 |
| 木花 正純 | 四国中央市 |



第64回愛媛県老人クラブ大会 大会宣言

記

「健康づくり」「支え合い」「生きがいづくり」「地域づくり」を旨として多彩な活動を展開し、皆が安心して暮らせる豊かな地域社会づくりの実現に向けて力を尽くしてきた。

前回の状況を取り戻しつつある。とはいえ、地域コミュニティの衰退、要介護者の増加、高齢者の孤立、消費者被害、老人クラブの減少など、依然として私たちが取り巻く困難な課題は残されたままである。

だが、令和2年から続く「新型コロナウイルス感染症拡大」の災禍により、高齢者の当事者団体である老人クラブの様々な活動が自粛に追い込まれ、組織の弱体化が懸念されてきた。その一方で、私たちは、日常生活と感染防止対策を両立させながら、創意工夫を凝らし、健康長寿の延伸やフレイル予防、「通いの場づくり」に向けた取組などを推し進めることにより、この災禍を乗り越え、コロナ

私たちが、これらの課題に立ち向かい、高齢者が住み慣れた地域で安心して、健やかで心豊かに暮らし続けていけるよう、積極的に社会活動に参加するとともに、高齢者の生きがいにつながる取組を進め、すべての世代が輝ける地域共生社会実現のための一助とならねばならない。

本日、私たち愛媛県老人クラブ会員は、決意も新たに次の事項の実践を誓い、ここに宣言する。

- 一、健康づくり・フレイル(虚弱)予防活動に積極的に取り組む、すべての高齢者の健康寿命の延伸に努める
- 一、会員共助による「地域支え合い活動」を推進する
- 一、クラブの解散防止と会員増強に向けた取組を推進する
- 一、魅力あるクラブづくりを推進し、次世代リーダーの力を積極的に活用する
- 一、高齢者の詐欺等の犯罪防止活動や交通事故撲滅運動を推進し、安心・安全のまちづくりに努める

令和6年9月4日
第64回愛媛県老人クラブ大会

令和6年度中国・四国スロックス老人クラブリーダー研修会 徳島県で開催

公益財団法人全国老人クラブ連合会及び徳島県老人クラブ連合会主催による令和6年度中国・四国ブロック老人クラブリーダー研修会が、7月11・12日の2日間にわたって徳島県三好市池田総合体育館において開催され、本県からは15名が参加しました。

また2日目の後半には、1974年の春、わずか11人の部員で選抜優勝を果たした「さわやかイレブン」の元主将 森本秀明氏による「さわやかイレブン」の監督との思い出しと題した講演が行われ、当事者でしか知りえない当時の舞台裏や監督のエピソードがユーモアを交えて語られ、会場は終始笑いが絶えませんでした。

初日は開会式に続いて全国老人クラブ連合会参事の河野敦子氏から「老人クラブの現状と課題」と題した基調報告があり、その後は3つの研修テーマに沿った部会を2日間にわたり、全体で行いました。

1日目は、第一部が「健康長寿を目指す健康づくり、介護予防・フレイル予防活動」について、第二部は「共生社会の実現に向けた支え合い、友愛活動を基盤とした幅広い生活支援活動」というそれぞれのテーマのもとに研究討議がおこなわれました。

2日目の第三部「地域での孤立を防ぐ会員増強の取組と後継リーダーの育成」では、愛媛県から久万高原町野尻明友会会長の天野真之さんが登壇し、活動発表を行いました。ここでは、老人クラブの情報発信の場として「かわら版 IN 明友会」を発行し、全戸配布をすることで、活動の見えやすさ、可視化を図ったり、メールやマジック教室等の開催を通じて魅力あるクラブづくりや、60歳代の加入促進に取り組んだ活動などが紹介され、2日間にわたって、情報交換や活発な討議が行われました。



令和6年度愛媛県老人クラブスポーツ大会開催

「コロナ禍以降、半日日程という、規模を縮小した形での開催を余儀なくされていたスポーツ大会ですが、心配された雨も前日までに上がり、青空の下、さわやかなスポーツ日和となった令和6年10月24日、愛媛県老人クラブスポーツ大会は、愛媛県総合運動公園において、6年ぶりに昼食を挟んでの1日日程で開催されました。



この大会を開催するにあたり、事業費の一部に赤い羽根共同募金配分金が充てられました。

開会式には、来賓として愛媛県知事村時広氏（一政恒之保健福祉部生きがい推進局長が代理）が臨席され、祝辞をいただきました。また、選手宣誓では、ゲートボールの部で令和4年度に優勝した（令和5年度は雨天により中止）波止浜しまなみチーム（今治市）の片上勝允さんがすべての選手の代表にふさわしい、力強い宣誓を行いました。この選手宣誓を皮切りに3会場に分かれて競技がスタートし、5つの種目で優勝を争いました。



5競技の結果は次の通りです。

▽クロッケーの部

（運営は砥部町老連）

優勝 鬼北町三島（鬼北町）

準優勝 田穂（西予市）

第三位 大平長寿会（八幡浜市）

▽グラウンド・ゴルフの部

（運営は丸山・ゴルフ協会）

優勝 居相寿齡会（松山市）

準優勝 大西新町A（今治市）

第三位 中町Aチーム（松山市）

▽ゲートボールの部

（運営は愛媛県ゲートボール連合）

優勝 四国中央チーム

準優勝 よしつみ 泊（今治市）

第三位 大洲脇川予子林（大洲市）

▽ベタンの部

（運営は伊方町老連）

優勝 馬木A（松山市）

準優勝 鬼北チーム（鬼北町）

第三位 幸風苑B（松山市）

▽ワナゲの部

（運営は新居浜市老連）

優勝 西岡白寿会（東温市）

準優勝 宇和島うわば会（宇和島市）

第三位 宇和島国永B（宇和島市）

今そこにある危機 そのときあなたは… 令和6年度女性リーダー研修会開催

令和6年度の県老連女性リーダー研修会が11月28日、愛媛県県民文化会館別館第11会議室において開催され、県下各地から女性リーダー57名が参加しました。

今年度の研修会のテーマは「ズバリ『今そこにある危機』」。1月1日に震度7を観測した能登半島地震災害で幕を開けた2024年、愛媛県において、4月17日に豊後水道で発生した地震では、愛南町で最大震度6弱を観測、その後8月8日に発生したマグニチュード7.1の日向灘を震源とする地震では、南海トラフ地震臨時情報が運用開始後初めて発表されました。一方で記録的豪雨災害も全国で多発、松山市では7月12日未明に松山城城山で大規模な土砂崩れが発生し、痛ましい犠牲者を出した他、周辺一帯が断水や停電などの被害に見舞われました。さらに11月には、松山市や今治市で、観測史上最大の100ミリを超える1時間雨量を記録し、複数の場所で冠水が発生したのは記憶に新しいところです。2024年は、災害のリスクは常に身近にあるということを改めて痛感させられた1年でした。

そこで今回の研修会では、前半で地震や大雨、台風といった自然災害の基礎知識や、地域や家庭の防災対策について学び、後半では、怪我、事故、病気など、いざという時に知っておきたい緊急時の対応やミニ知識などについて学んでいただくことになりました。

研修会は、越智美智子県老連女性委員長（西条市）の挨拶で幕を開け、続いて松山市危機管理課の島瀬達也災害対策指導員による防災講座が行われました。

ここでは、私たちの身近で起こりうる様々な



な災害についての詳しい解説があり、災害マップなどで居住地の災害危険度を知っておくこと、家族で防災会議を開いて災害時の対応を確認しておくことが大切だと話されました。また、家具を固定する、重いものはできるだけ低い位置に置く、地震の際にはトイレに逃げ込みドアを開けるとよいなどといったお話もありました。さらに災害時、絶対に必要になるのはトイレと水だとして、非常用トイレ及び持ち出しが容易な500ミリリットルのペットボトルの水を日頃から準備しておくこと、その他今すぐできる備蓄として冷凍食品を買ってためておくことよいなどといった指導を受けました。

休憩を挟んで、いきいき体操が行われた後は、日本赤十字社愛媛県支部健康生活支援講習指導員の鶴久森陽子氏による救急救命講座が行われました。ここでは、加齢に伴い起こりやすい事故や怪我、病気及びその対処法を、実技を交えながらわかりやすく解説していただき、皆、真剣に聞き入っていました。



松野町老人クラブ連合会の皆様、習ったトレーニングをコツコツと続けていき、健康寿命を延ばすよう心がけましょう。今後とも体調に気を付けてながらがんばってください。

今回の研修会は、能登半島地震をはじめとする自然災害を教訓に、明日は我が身として備えを怠らず、また、ここで学んだことを持ち帰って周りに伝え、クラブの絆で地域を守るという意識を高めていただくことを目的に開催しました。皆さんの地元での生活や今後の活動に少しでも役立てていただければと思います。

今年度の健康づくり大学校は、5年ぶりに本来の大学校形式に戻して、愛媛県の最南端、愛南町で開催いたしました。

健康づくり総論、レクリエーションや睡眠の話、また地元での第一次産業や防災セミナー等、様々な分野の先生にご講義をいただきました。

今年度は公開講座も実施。一般の方々にも講義の一部を広く開放いたしました。なかでも三崎めぐみ先生の講演は大変好評で、皆さん大いに歌って笑って、楽しい時間を過ごされたようです。

また課外講座として、平城貝塚展示室見学も実施しました。4千年前の人々の暮らしに皆さん大いに関心を持たれておりました。



48名の受講生の皆さんからは、良し勉強になりました。有意義な大学校でした。お友達もできました等のありがたい言葉をいただきました。ここで学んだことをご自身や周りの人たちの健康づくりにもぜひ役立てていただければと思います。

転ばないための体力づくり教室 — 松野町 (高齢者の体力づくり支援事業)

今年度は松野町のコミュニティセンターで、5月から12月（8月・11月は休）まで月に1回集まり、計6回、体力測定や体力アップのためのトレーニングを行いました。

34名の方に参加していただき、猛暑の中もがんばって参加していただきました。皆さん熱心に健康運動指導士の先生の指導をうけられ、少しきついけど頑張っている程度の運動を毎回しっかりと行いました。

5回目のトレーニングではちょうど職場体験に来ていた中学生にも参加してもらい、平均年齢をグッと下げたトレーニングとなりました（笑）。皆さんも心なしか張り切っていました。



松野町老人クラブ連合会の皆様、習ったトレーニングをコツコツと続けていき、健康寿命を延ばすよう心がけましょう。今後とも体調に気を付けてながらがんばってください。

地域に広げよう 友愛の輪

令和6年度高齢者相互支援事業について

県老連は、引きこもりがちな高齢者を地域で支えるため、モデル地区を指定して友愛活動を行う「高齢者相互支援推進事業」を毎年実施しております。

本年度はモデル老連として今治市、松山市、内子町が指定され、それぞれの地域に即した独自の活動を展開しています。県老連では、今後事業を進めるにあたり、中心的役割を担うシブパリーダーをモデル老連ごとに選任し、8月に各モデル市町において相互支援推進連絡会議とリーダー養成セミナーを開催しました。

セミナーでは、県生涯学習講師による講演や活動の進め方を丁寧に解説したDVDの上映が行われ、参加者は皆、熱心に耳を傾けていました。

また3月5日には、各モデル老連のシブパリーダーが一堂に会し活動報告を行う「高齢者相互支援活動啓発セミナー」を、松山市の県民文化会館別館にて開催いたします。このセミナーでは、活動事例発表の他、地域での支え合い活動

についての講演も行われる予定です。

コロナ禍はほぼ収束したとはいえ、コロナが老人クラブ活動に与えた影響は大きく、コロナ前の水準に戻るには、まだまだ時間がかかりそうです。

一歩一歩地道に歩みを進めていくほかに正解はないのかもしれない。他者と触れ合う機会を増やし、時代に即した友愛活動スタイルを模索しつつ、まずは、できることから無理せず活動を進めたいと思います。

年度の県老連の事業計画や寄付金の確保等についての説明がありました。その後、週一回の盆踊り体操やホットカフェの開催、女性部の講習で、皆が楽しめるような、ゲームを企画しているといった、地域における女性部の活動状況などについての活発な情報交換や討議が行われて、令和6年度女性委員会は閉会しました。

県老連女性委員会の開催

このたび、県老連の女性委員が任期満了となり、各市町老連から推薦された19名(上島町は推薦無し)が新たに女性委員に就任することになりました。任期は令和8年3月31日までの2年間で、5月9日には新任委員を招集して女性委員会が開催され、今回新しく選任された女性委員が顔をそろえました。

自己紹介が続いて、まずは新役員の互選が行われました。その結果、女性委員長には前副委員長の越智美智子氏(西条市)、新たな副委員長には中予の山内カツノ氏(松山市)と南予の窪田哲子氏(大洲市)が選ばれました。なお、選出された女性委員長は愛媛県老人クラブ連合会の副会長・理事を、また副委員長は評議員をそれぞれ務めます。

続いて、県老連の兵頭事務局長より今年度の県老連の事業計画や寄付金の確保等についての説明がありました。その後、週一回の盆踊り体操やホットカフェの開催、女性部の講習で、皆が楽しめるような、ゲームを企画しているといった、地域における女性部の活動状況などについての活発な情報交換や討議が行われて、令和6年度女性委員会は閉会しました。



令和6年度愛媛県老人クラブ連合会役員について

各市町老連役員の交代に従い、愛媛県老連役員が下記のとおり選任されました。

令和7年1月1日現在

役職名	氏名	所属
会長	松田俊一	今治市老連会長
副会長	近藤博昭	四国中央市老連会長
	中村恵美子	松山市高連会長
	森岡知昭	愛南町老連会長
	越智美智子	愛媛県老連女性委員長
	兵頭昭洋	愛媛県老連事務局長
常務理事	曾我部壽恵廣	西条市老連会長
理事	東正史	東温市老連会長
	丸山淳	久万高原町老連会長
	本田裕明	宇和島市老連会長
	大塚生男	内子町老連会長
	井上征広	鬼北町老連会長
	田坂勝彦	新居浜市老連会長
評議員	田坂重只	上島町老連会長
	津國賞	松山市高連副会長
	安永勉	松前町老連会長
	森内修	砥部町老連会長
	矢野恭宣	八幡浜市老連会長
	和田泰則	大洲市老連会長
	坂田諭	西予市老連会長
	和家康治	伊方町老連会長
	菊池吉峰	松野町老連会長
	森田勝之	愛媛県老連女性副委員長
	山内カツノ	愛媛県老連女性副委員長
	窪田哲子	愛媛県社会福祉協議会常務理事
	山本泰士	愛媛県社会福祉協議会常務理事
	喜安久典	前伊予銀ビジネスサービス(株) 東温市老連若手委員長
若手委員長	宇和川伴典	

「令和6年能登半島地震災害」救援拠金について報告

令和6年1月に発生した能登半島地震災害では、9月に発生しました大雨災害も含め、能登半島全体に甚大な被害をもたらしましたが、その救援金につきましては、当連合会でもできる範囲での拠金を依頼いたしました結果、県内14市町老連より1,573,648円もの浄財が寄せられました。

全国老人クラブ連合会では、全国から寄せられた救援拠金2億1,540万円を、被災状況をもとに協議し、石川県をはじめとする5県市老連に下記のとおり配分いたしました。救援拠金をお寄せいただいた会員の皆様の友愛の心に改めて深く感謝申し上げますとともに、ここに報告させていただきます。ご協力誠にありがとうございました。

石川県	164,970,000円
新潟市	20,900,000円
福井県	690,000円
富山県	21,930,000円
新潟県	6,910,000円
合計	215,400,000円

事務局のつばやき

新年あけましておめでとございます。「愛媛県老連だより」をお届けいたします。お正月の雰囲気はまだ残っているこの時期にお届けすることができて、ほっとしているところで、昨年4月から県老連事務局長を務めるようになりました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

この職をいただく前のことで恐縮ですが、ある春の夜、ふと思いついたことがありました。「そうだ。老人クラブに入ろう」。60歳を超えているので入会資格に問題はありません。早速地元公民館に尋ねてみると思いもかけない一言。「おたくの地区に老人クラブはないよ。数年前に解散した」。えっ！ならば近くの地区の老人クラブに入れて貰えませんか。」

とお願ひすると、近隣のクラブも殆どが解散してしまったなかで、川を挟んだ対岸のクラブを紹介していただきました。早速電話で入会を申し出ると、「いや、すつとうちの校区だけでやってきたからなあ。」絶対ダメという雰囲気ではなかったのですが、あまり無理をお願ひする訳にもいきません。どうしよう。裏にもすがる思いで市老連に助けを求めました。「ないのであれば新規に立ち上げてください。」

「えっ！」南予出身の身ゆえ、当地に古い友人は一人もいません。なので大勢の新たな仲間を集めるというのは、月まで歩けと言われるに等しい所業です。完全に心が折れてしまいました。結局、老人クラブには入会することができず、折れた心のまま事務局長を務めることになったのですが、夏を迎える頃になつて、職場の住所地のクラブに申し込むことを思い付きました。自宅住所地ではないので心配しながら恐る恐る加入を申し込

むと、なんと快く承諾していただいたではありませんか。「やったあー！」

まだ新参者のため、具体的な活動は何一つできていませんが、これからのクラブ活動を楽しみにしているところです。ところで、今回の一連の道り取りから、老人クラブというものは意外に加入のハードルが高いことを思い知りました。窓口が分かります、あちこちに何度も電話しなければならぬ。そもそも地域のクラブがない。その場合は新たにクラブを立ち上げなければならぬ。このように、希望者に加入を思い止まらせるようなハードルに次々と遭遇します。

いま、老人クラブは急激に会員が減少しています。その原因は、高齢者の意識や嗜好の変化など、抽象的で掴みどころがないものが多く、その対応策を見つ不出すことも難しくなっています。とはいえ、こうした入り口で加入を断念してしまう人がいるとすれば、それはそれで勿体ないような気がします。この職をいただいて、一つ驚いたことがあります。それは、各市町老連の会長さん達の見識の高さです。何十年もの齢を重ね、様々な苦労を経験された中から生まれた、人生の筋金のようなものを具々に持っておられることに驚かされました。だからこそ高齢になっても老連の会長を務めることができるのだと思います。こうした人材は地域にとっての宝であり、老人クラブ存続の大切さを痛々と感じさせてくれます。

少子高齢化、地域性の希薄化、趣味嗜好の多様化、ネットの普及など、高齢者を取り巻く生活環境は大きく変化しています。これらの変化に老人クラブもしっかりと対応していかなければなりません。生き延びるのは優れた者ではなく変化に対応できる者である、とよく言われます。これからの老人クラブは、どうあるべきか。皆様方と共に腰を据えて考えていきたいと思っています。(長谷)